

# 1年間の寮生活で、 医療人としての 資質を磨いてほしい

学校法人昭和大学 理事長 小口勝司  
まとめ／堀水潤 撮影／中岡邦夫



【理事長プロフィール】1950年生まれ。昭和大学医学部卒業、同大学院医学研究科修了。昭和大学医学部第二薬理学助手、講師、助教授、第一薬理学教授、学生部長、学校法人昭和大学評議員、理事などを経て、2001年より現職。医学博士。

【大学プロフィール】1928年創立の昭和医学専門学校を母体に、46年昭和医科大学開学。64年昭和大学に校名変更。医学部(医学科)、歯学部(歯学科)、薬学部(薬学科、生物薬学科)、保健医療学部(看護学科、作業療法学科、理学療法学科)。

医・歯・薬・保健医療の各学部を擁する医系の総合大学。それが昭和大学です。単に国家資格取得を目指すのではなく、医療を通じて世界に貢献できる人物を育てることを建学以来の使命としています。富士吉田キャンパスにおける1年次の全寮生活も、この使命を実現するための一環。異なる学部の学生が混在した部屋での共同生活は、他人や自分に向き合い、協調性や問題解決能力など医療人に欠かせない資質を磨いてくれることでしょう。

全寮制は、40年以上かたくなに守り続けている本学最大の特徴です。二時期「個室慣れた若者に敬遠されるのでは？」と危惧したこともありましたが、今はそう考えません。私たちが育てたいのは、他者を思いやる心であり、チーム医療に欠かせないコミュニケーション能力です。自分のことしか頭にない医療人は必要ないし、だからこそ寮生活になじめない人では難しい。そこは、はつきり打ち出すべきで、世間の共感も得られるものだと信じています。満足度調査でも寮生活肯定する声は多く、卒業生の一人として私も実感しますが、同じ釜の飯を食べた者どうし卒業後の絆は強いもの。私の同期は約250人ですが、今秋、寮で

催した二泊三日のクラス会には70人も集まり、再現された当時の夕食には歓声があがりました。家庭的な雰囲気のある大学であることは今も昔も同じです。

1年次は授業も学部横断型で行われます。少人数で行われるPBL(問題解決型授業)は、2年次以降、都心のキャンパスに移ってから続き、年に数回は、学部横断授業が実施されます。「救急医療・外科医療と薬剤師」などのテーマについて、各学部の学生が専門性を生かしながら討議を繰り返すことで、チーム医療の意味を知ることでしょう。このように、本学の特徴は学部間の連携が非常に多いこと。こうした授業にファシリテーターとしてかわる教員もまた、学部を超えて動くことが多く、それはワークショップや参加型の教員研修にしても同様。徹底的にチームで動く大学なのです。

本学には8つの附属病院があり、そのすべてを実習病院として位置づけています。今後、クラークシップ(参加型臨床実習)の充実を図り、また卒業教育に力を入れるためにも病棟の数は増やす予定です。大学の役割は卒前教育だけではありません。卒業後、スキルを磨き続ける人材が社会に貢献する。それがそ本学が目指す教育です。